

CONCOMITANT SEPTAL MYECTOMY WITH AORTIC VALVE REPLACEMENT FOR SEVERE AORTIC STENOSIS WITH LEFT VENTRICULAR OUTFLOW TRACT OBSTRUCTION

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梅津, 明子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003045 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2730 号

CONCOMITANT SEPTAL MYECTOMY WITH AORTIC VALVE REPLACEMENT FOR SEVERE AORTIC STENOSIS WITH LEFT VENTRICULAR OUTFLOW TRACT OBSTRUCTION

左室流出路狭窄を伴う重症大動脈弁狭窄症に対する弁置換術と併施する心筋切除術の検討

梅津 明子 (うめつ あきこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文では、重度大動脈弁狭窄症 (sAS) に合併する左室流出路 (LVOT) 狭窄 (LVOTO) に対し外科的大動脈弁留置術 (SAVR) と併施する心筋切除術の有効性と、これらがより有益となる患者背景の解析を行った。当院にて 2012 年から 2019 年の間に sAS に対し SAVR を施行したのは 743 例であった。うち心筋切除群 43 例について LVOTO リスク (HCM の診断、左室壁 ≥ 15 mm、心室中隔/後壁比 > 1.3 、S 字状心室中隔、収縮期僧帽弁前方運動)、手術詳細、心エコー変化、予後を評価した。切除心筋は組織学的解析をした。結果、心筋切除群はその多くが高齢 (76 ± 7 歳) 女性 (77%) であり、心臓は小さく過収縮であった (左室内径拡張期 43.0 ± 5.2 mm、左室内径収縮期 25.3 ± 3.9 mm、左室駆出率 $71.1 \pm 7.4\%$)。術後の求心性左室肥大の改善 (相対的壁厚 0.57 ± 0.10 mm \rightarrow 0.51 ± 0.07 mm、 $P < 0.05$ 、左室心筋重量係数 129.7 ± 33.6 g/m² \rightarrow 111.2 ± 24.5 g/m²、 $P < 0.01$) は単独 AVR でも見られるが、LVOT 最大速度の改善 (1.92 ± 1.34 m/s \rightarrow 1.20 ± 0.67 m/s、 $P < 0.05$) や LVOT 最大圧格差の改善傾向 (18.7 ± 30.1 mmHg \rightarrow 7.5 ± 11.8 mmHg、 $P = 0.172$) は、肥大型心筋症における心筋切除術の効果と合致し、心筋切除術によるものと考えられる。75 歳以上の患者に限っても各々の解析は同等の結果で、生命予後は他報告と同等 (5 年 86%) であった。切除心筋には一部線維化が見られた。本論文は上記の項目を LVOTO リスクとして評価した点で新しく、患者背景が人種・体格を超越米国の報告と合致したのは興味深い。経カテーテル的大動脈弁留置術の適応が拡大しつつある中、心筋切除術の有効性を示し、高齢女性で小さいが肥大が強く過収縮な心臓については、心筋切除を追加可能な SAVR が適している可能性があり、注意して LVOTO の評価を行う必要がある、という事を明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。